

アルガトロバン注射液10mg「日医工」 ～本剤の投与速度に関して～

注意

本剤は、アルガトロバン水和物濃度が10mg/20mLです。
アルガトロバン先発製剤の濃度(10mg/2mL)とは異なります。
ご使用される際には本剤が先発製剤の1/10の濃度であることにご留意ください。

- 特に「ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) II型 (発症リスクのある場合を含む) における経皮的冠インターベンション施行時の血液凝固防止」及び「HIT II型における血栓症の発症抑制」にご使用される際には、次の表 (1-3) をご参照ください。

1. アルガトロバン水和物0.1mg/kg投与

体重	0.1mg/kg	
	アルガトロバン水和物として(mg)	本剤として(mL)
40kg	4.0	8.0
50kg	5.0	10.0
60kg	6.0	12.0
70kg	7.0	14.0

2. アルガトロバン水和物6 μ g/kg/分持続投与

体重	6 μ g/kg/分	
	アルガトロバン水和物として(mg/時)	本剤として(mL/時)
40kg	14.4	28.8
50kg	18.0	36.0
60kg	21.6	43.2
70kg	25.2	50.4

3. アルガトロバン水和物0.7 μ g/kg/分及び0.2 μ g/kg/分持続投与

体重	0.7 μ g/kg/分		0.2 μ g/kg/分	
	アルガトロバン水和物として(mg/時)	本剤として(mL/時)	アルガトロバン水和物として(mg/時)	本剤として(mL/時)
40kg	1.7	3.4	0.5	1.0
50kg	2.1	4.2	0.6	1.2
60kg	2.5	5.0	0.7	1.4
70kg	2.9	5.8	0.8	1.6

※アルガトロバン注射液10mg「日医工」



アルガトロバン注射液10mg「日医工」

用法・用量

- (1) 下記疾患に伴う神経症候（運動麻痺）、日常生活動作（歩行、起立、坐位保持、食事）の改善
・発症後48時間以内の脳血栓症急性期（ラクネを除く）

通常、成人に、はじめの2日間は1日6管（アルガトロバン水和物として60mg）を適当量の輸液で希釈し、24時間かけて持続点滴静注する。
その後の5日間1回1管（アルガトロバン水和物として10mg）を適当量の輸液で希釈し1日朝夕2回、1回3時間かけて点滴静注する。
なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

- (2) 慢性動脈閉塞症（バージャー病・閉塞性動脈硬化症）における四肢潰瘍、安静時疼痛ならびに冷感の改善

通常、成人1回1管（アルガトロバン水和物として10mg）を輸液で希釈し、1日2回、1回2～3時間かけて点滴静注する。
なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

- (3) 下記患者における血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（血液透析）

- ・先天性アンチトロンビンⅢ欠乏患者
- ・アンチトロンビンⅢ低下を伴う患者
（アンチトロンビンⅢが正常の70%以下に低下し、かつ、ヘパリンナトリウム、ヘパリンカルシウムの使用では体外循環路内の凝血（残血）が改善しないと判断されたもの）
- ・ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）Ⅱ型患者

通常、成人に、体外循環開始時に1管（アルガトロバン水和物として10mg）を回路内に投与し、体外循環開始後は毎時2.5管（アルガトロバン水和物として25mg）より投与を開始する。
凝固時間の延長、回路内凝血（残血）、透析効率及び透析終了時の止血状況等を指標に投与量を増減し、患者毎の投与量を決定するが、毎時0.5～4管（アルガトロバン水和物として5～40mg）を目安とする。

- * (4) ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）Ⅱ型（発症リスクのある場合を含む）における経皮的冠インターベンション施行時の血液の凝固防止

本剤をそのまま又は適当量の輸液で希釈し、通常、成人にアルガトロバン水和物として0.1mg/kgを3～5分かけて静脈内投与し、術後4時間までアルガトロバン水和物として6 μ g/kg/分を目安に静脈内持続投与する。
その後抗凝固療法の継続が必要な場合は、0.7 μ g/kg/分に減量し静脈内持続投与する。
なお、持続投与量は目安であり、適切な凝固能のモニタリングにより適宜調節する。

- * (5) ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）Ⅱ型における血栓症の発症抑制

本剤をそのまま又は適当量の輸液で希釈し、通常、成人にアルガトロバン水和物として0.7 μ g/kg/分より点滴静注を開始し、持続投与する。
なお、肝機能障害のある患者や出血のリスクのある患者に対しては、低用量から投与を開始すること。
活性化部分トロンボプラスチン時間（aPTT）を指標に投与量を増減し、患者毎の投与量を決定する。

* (4)、(5)の効能・効果にご使用される際には、裏の表もご参照ください。

- 注：以下の効能・効果は2019年1月9日に承認取得
(3) HITⅡ型における血液体外循環時の灌流血液の凝固防止
(4) HITⅡ型における経皮的冠インターベンション施行時の血液の凝固防止
(5) HITⅡ型における血栓症の発症抑制